令和４年度　福井県立金津高等学校　学校関係者評価書

協議題

・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策、向上策が適切かどうか。
・その他

御意見を伺った方々

学校関係者評価委員会：あわら市教育長（本校育成会代表）、芦原中学校長、金津中学校長
地域住民代表、同窓会長、ＰＴＡ会長、ＰＴＡ副会長

御意見

◇教育課程・学習支援

○「子どもは学習をしっかりやっていると思う」についての保護者の評価が目標指数を下回っていることについて、どのように考えているか。
・教員から見て、生徒は一生懸命学習に取り組んでいる。保護者は子どもへの思いが強いため期待値が高く、このような結果になったのではないだろうか。改善策として、学年通信や学校のサイトを通して、生徒たちの学習への取組を発信していく。情報発信だけでなく、課題の与え方やさせ方にも配慮する。
○中学校では、宿題を今年度廃止した。課題は与えるが、チェックはしていない。高校では課題をどのように扱っているか。課題を強制的にやらせているのか。
・教科によるが、生徒の自主性を尊重したり、期限を設けてチェックしたりしている。自力で取り組むことが難しい生徒に対しては、放課後に個別指導などを行っている。生徒への課題の量や内容は、以前と比べて大きく変わらない。

◇生徒支援

○今年度、どのような取組を行ってきたか。
・規律ある生活習慣、挨拶の大切さについて折りに触れて話し、朝に職員が登校時の生徒の姿を見守っている。生徒の様子は年々よくなっている。また、交通指導、巡回指導（駅周辺駐輪場）も行っている。学校行事では、生徒一人ひとりが主役になるよう工夫している。部活動の加入
率は極めて高く、積極的に活動できている。いじめ問題については、毎月チェックシートを使った調査をタブレットで行っており、担任との面談などをとおしてその都度対応している。教員対象の研修も行っており、いじめ問題に強く取り組んでいくという姿勢をこれからも持ち続ける。

◇進路支援

○模試結果の分析に合わせて学力向上を図る、とあるが、実際の入試問題より模試の問題の方が難しい大学もある。様々なレベルの大学の対策をしてもらいたい。
・模擬試験とは、どの教科、どの分野ができていないかを生徒が把握し、取り組むためのものである。各教科担任も、全体的な課題については授業、模試前の土曜講座等で対策している。大学は多くあるので、どこかに絞って指導するということは難しい。現状では生徒が各自で入試問題を解き、教科担任の指導を受けている。また、各大学の試験問題は教科書をベースに出題しており、授業を理解することが入試につながる。
○坂井地区の普通科進学校である本校の国公立大学への進学率に、地域の人々は高い関心を持っている。このような会議の場で進学のデータを出してもらえないか。
・進学実績、部活動実績を掲載した学校案内を配付しているので見ていただきたい。

◇中高一貫教育
〇今年度どのように取り組んできたか。
・今までは中学 3 年次に国・数・英の連携授業を行っていたが、今年度からは英・数、特に数学に力を入れている。高校入学以降も、一般クラスとは違うカリキュラムを用意している。中学 3 年次に高校の 1 単位分の学習内容を終えており、高校 2 年次までの 3 年間で一般クラスより早く進んで受験に備える。また、探究についても、中学校で熱心に取り組んでいるので、高校 1 年次では一般クラスとは異なるカリキュラムでよりレベルの高い探究学習を行っていく。３月９日には高校 1 年生全員と中学 3 年の連携クラスの生徒が一緒に探究の発表会を行った。高校でも探究に力を入れている。
〇来年度から、中学校の保護者＋高校の保護者のアンケート結果を中学校にも共有させていただきたい。

◇保健管理
〇保健だよりは保護者あてなのか、子どもあてなのか。子どもが読むべき内容だと思うが、読まずに親に渡すので、「自分が読んでから親に渡すんだよ」などと一言添えてほしい。
・保健だよりは保護者・子どもの両方に読んでもらいたい。生徒の健康への意識が低いところも改善していきたい。

◇開かれた学校づくり
〇学年通信について、子どもは誰あての通信なのかを意識しておらず、読んでいない。渡す前に指導してほしい。
・学年通信も保護者・子どもの両方に読んでもらいたい。渡し方も改善していきたい。
〇あわら市の中学校では、保健だよりや学年通信のようなお知らせを、今年からは紙では渡さずデータで渡すようになった。どちらかというと保護者向けの内容であるので、中学校からの流れで子ども本人が読まない場合があるのではないか。

◇図書指導
〇朝読書はどのように行っているのか。
・毎朝 10 分間、自分で用意した本を自由に読む。木曜日のみ、図書委員が用意した新聞記事の読み比べを一斉に行っている。積極的に朝読書に取り組んでいる生徒の割合が高く、生徒への初期指導が効果的に行き渡ったと言える。

◇授業改善
〇オンライン授業は自宅の PC でも受けられるのか。学校から貸与されているタブレットは、必要に応じて家に持って帰ればいいのか。1 人 1 台タブレットを配付されているのに学校に置きっぱなしで、どう使うかわかっていなかった。
・持ち帰りは可能。リモートでの授業は自宅 PC でも受けられる。また、タブレットは持ち帰らなくてもスマートフォンで代用できることもある。

◇その他
〇高校で「指導」という言葉を「支援」に変えたのを受け、中学校でも後期から「支援」としている。
・生徒が主体的に活動し、教員はそれを支援していくということで、今年度より名称を変えた。
〇探究について、個人の探究だけでなくグループでも経験した方が内容的に広がるので、改善してくださったのはありがたい。中学で探究したものを高校でも探究していくのもいいと思う。このような、教科以外のことに取り組んでもらえるのはありがたい。教科の力に合わせて探究の力を上げるのも大切だと思う。探究で難関大学に合格する生徒も他校にいる。

◇全体（総括）
〇学校評価書の成果と課題およびそれらを踏まえた今後の改善策、向上策は概ね適切である。

◇学校関係者評価を踏まえた今後について
・今年度の学校評価の結果および学校関係者評価に基づき今後の課題について改善･工夫を行い、次年度のスクールプラン、教育方針･教育目標に活かしていく。